

目 次

□合理的に	湯原元一
□感謝の辭	中川謙二郎
□暗黒面に就いて	中川謙二郎
□平安朝貴族の風雅趣味	關根正直
□倭繪に就きて	下村三四吉
□衣服の話	菅原教造
□西洋音樂の發達に就きて	田邊尙雄
□現代日本畫の傾向	志賀篠崎
□感想	
□向ひの岡	尾上柴舟
□詠草より	
□えんそく	□旅行
□去年度國語教授界の諸研究	□雜報
	□參考書研究

合理的に

湯原元一先生講話

東西の婦人を比較して見れば種々の點に於て長短があるが、その著しいものを求めてみれば、先づ第一に何人も眼につくのは體格の事であらう。女子の體育といふ事については今日は上下共に力を盡して居るが、併しこの體格なる物は永い間の遺傳の結果であるから、出来る丈の事をしなくてはならないのは勿論であるが、如何に努力してもさう一朝一夕には彼と比肩し得る様には至るまいと思ふ。次に著しいのは、理性即ち Vernunft の發達に於て我が大に劣つて居るといふ事である。この理性の養成といふ事については歐洲諸國中でも、最ドイツが重きをおいてやつて居る事で、ドイツの文化についての研究は今日は餘程盛になつて來た。最近の新聞に依れば、英國のエヂンバラの大學では、特に多額の金員を支出してドイツ研究なる講座を設け、其の教授の人選を行つたといふ事であるが殆どその血族を同うして居る英人にして今更の如くにこの舉あるを見れば、如何に今日迄ドイツの文化が一般に理解されずに居たかといふ事が解る。戦争前に於る英人多數の意見は、ドイツが學術的方面に於て優秀なる事は充分に之を認めるが、一般文化の價値如何については大に之を疑ふ、といふに在つた。時局發生後に於る英國の輿論は、ドイツは學術に於ては優秀であるが、彼等の學術は彼等の文化とは全く没交渉で、ドイツ人は依然たる野蠻人である、唯偶々學術に於て優秀なる位地を勝得たにすぎない、と云ふ様に、口を極めて譏つて居た。佛國とても同様であつた。然るに其後